



平成 23 年 3 月 18 日 金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
(奈良県保健環境研究センター内)
N a r a I D S C



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 保健環境研究センター3月だより
～地域性がみられた A 群ロタウイルス流行（2009）～ **New**
- 非流行季のインフルエンザ発生状況の集計結果（第 3 報） **New**
- 奈良県ノロウイルス検出状況 **New**



（調査週） 平成 23 年 第 10 週 3 月 7 日（月）～3 月 13 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾 患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	9.71	→	→	→～↓	→～↓
2	感染性胃腸炎	8.63	→～↑	→～↑	↑	→～↑
3	水 痘	1.83	↑	→	↑	↑
4	A 群溶連菌咽頭炎	1.20	→	→～↑	→	→～↓
5	伝染性紅斑	0.57	→～↑	→	↑↑	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 550 例で、前週報告の 497 例から 2 週連続でやや増加。上位 5 疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③水痘、④A 群溶連菌咽頭炎、⑤伝染性紅斑の順で、前週報告分と全く変わらず。インフルエンザの報告数（326 例）は、2 週連続で増加。水痘の報告数（24 例）は、ほぼ横ばい。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（17 例）も、ほぼ横ばい。感染性胃腸炎の報告数（143 例）は、やや減少。伝染性紅斑の報告数（11 例）も、やや減少。なお、インフルエンザの定点報告の内訳は、奈良市 HC 管内；186 例、郡山 HC 管内；140 例で、県北部地区として再度注意報レベル（12.07）、また、奈良市 HC 管内のみ注意報レベル（16.91）がなお継続中である。奈良市 HC 管内基幹定点から、無菌性髄膜炎の報告が 1 例（10～14 歳児）あった。また、郡山 HC 管内眼科定点からは、流行性角結膜炎が 1 例報告された。（村井 記）

県北部外来状況：外来患者数は震災の頃より増加傾向にある。多くの感染症の流行が出てきている。インフルエンザは地区により B 型が大流行になっている。それに伴い中学生以下の感染者が大半になっている。感染性胃腸炎はやや減少気味であるが、ロタウイルス陽性が増えている。アデノウイルス感染症（咽頭結膜熱）も保育園児を中心に増加している。3-4 才より花粉症の症状が出ている子もよくみかける。
(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は、342 例から 399 例と増加した。上位 5 疾患は、感染性胃腸炎、インフルエンザ、水痘、A 群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱の順であった。感染性胃腸炎は 102 例から 136 例と増加し、水痘も 17 例から 33 例と増加した。インフルエンザは 179 例と減少傾向であるが、葛城保健所では定点報告数が 11.18 と 3 週間ぶりに 10.0 を上回った。眼科定点からは、流行性角結膜炎 5 例の報告が桜井保健所より 3 例、葛城保健所より 2 例あった。基幹定点からの報告はなかった。(高木 記)

県中部外来状況：外来数はやや増加。インフルエンザ B 型が学童を中心に流行してきた。幼児は少ない。短期の 38℃程度の軽症で、気付かず登校している例もある。消化器症状は言われているほど伴っていない。検査キットの反応は A 型に比べ薄い傾向で、慎重な確認を要する場合もある。少ないが併行して A 型も混在している。タミフル耐性と思われる高熱持続の B 型成人例があった（親からの話）。感染性胃腸炎が続いて流行中。半日程度の嘔吐、下痢程度の軽症。中に、キャンピロ、種々の O 群大腸菌の感染があり、現在流行の例には細菌検査が必要と思われる。他に水痘が流行中。咳嗽等呼吸器症状の例はやや減少の印象で、マイコプラズマ、RS 様の例はなかった。
(岡本 記)

県南部地区概況 報告数（第 9 週→第 10 週）は、66 例→66 例と同数で推移。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（24 例→29 例）、②感染性胃腸炎（25 例→23 例）、③A 群溶連菌咽頭炎（10 例→7 例）、④水痘（4 例→7 例）。
(柳生 記)

県南部外来状況：外来数は少ないながらやや増加の傾向となっている。インフルエンザは週 3 名程度だがまだ見られる。B 型が殆ど。A 群溶連菌咽頭炎が相変わらず多い。感染性胃腸炎はカンピロバクター 2 例、ロタ 1 例があった。百日咳が小学生と中学生であった。成人例も見受ける。水痘少し。流行性耳下腺炎は認めず。
(山本 記)

【保健環境研究センター3月だより

～地域性がみられた A 群ロタウイルス流行（2009）～】

A 群ロタウイルス（以下、ロタウイルス）は、毎年晩冬から春先にかけて小児に流行する嘔吐下痢症の主要な病原ウイルスです。1999 年から 2008 年までの奈良県における概要は既に報告いたしましたが（2010 年第 14 週）、今回は 2009 年の状況をご報告します。

患者発生時期は、4 月（15 例：48％）をピークとする 1 月から 6 月でした。G

血清型および患者年齢区分別の発生状況を表に示します。これらの結果は、概ね過去の傾向と同様です。一方、地域別の観察では、北部医療圏（奈良市および郡山保健所管内）で 13 例のうち G1：10 例（77％）、G3：2 例（15％）および G4：1 例（8％）、中部医療圏（葛城および桜井保健所管内）で 15 例中 G1：4 例（27％）、G2：1 例（7％）、G3：10 例（66％）、そして南部医療圏（内吉野および吉野保健所管内）では 3 例すべてが G1（100％）と、医療圏により大きく異なりました（図）。ひとつの要因として、ロタウイルスの感染様式が飛沫感染ではなく接触感染であることが考えられますが、ロタウイルス流行メカニズムを解明する上で興味ある現象です。

わが国では、まもなく 2 種のロタウイルスワクチンが承認される見通しです。ワクチンの有効性を評価するためにも、詳細な疫学データを蓄積することは我々の重要な任務と考えています。病原体定点医療機関の先生方には、引き続き検体収集にご協力いただきますようお願い申し上げます。

表. G 血清型別・年齢区分別症例数（2009）

G血清型	年齢区分			計(%)
	0～2歳	3～6歳	7歳以上	
G1	12	5		17 (55)
G2			1	1 (3)
G3	9	3		12 (39)
G4	1			1 (3)
計(%)	22 (71)	8 (26)	1 (3)	31 (100)

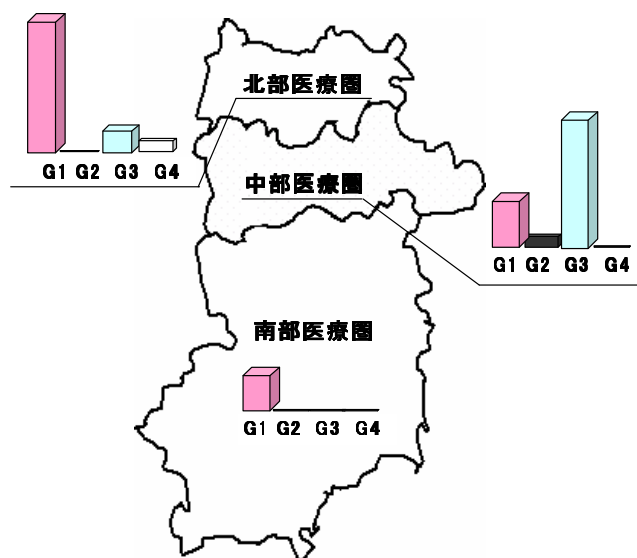


図. 医療圏別G血清型発生頻度

（ウイルスチーム 井上 記）

非流行季のインフルエンザ発生状況の 集計結果(第3報)

平成 22 年度奈良県感染症発生動向調査事業
平成 22 年度新型インフルエンザ対策事業

6. 薬は効くの？

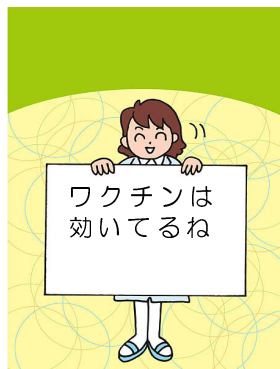
現在までに検出された新型ウイルス 182 件について、オセルタミビル耐性検索が終了しました。耐性を確認したのは 1 件のみで、オセルタミビル 5 日間投与後の咽頭ぬぐい液から得られました。しかし、その後当該患者の周辺に耐性ウイルスの広がり確認されませんでした。一方、香港型ウイルス、33 件についてアマンタジン耐性検索を行ったところ、すべてが耐性でした。香港型は 2005/2006 シーズンにアマンタジンに対し高頻度に耐性を獲得していますが、その傾向は依然として継続しています。

現在流行している新型および香港型インフルエンザウイルスは、ほぼすべてがオセルタミビル感受性です。



7. ワクチンは効いてる？

分離したウイルスの抗原解析を行うことにより、ワクチンの効果を推定することができます。ワクチン株と抗原性に差がない場合は表の「0」にプロットされ、有効性があると考えられます。新型ウイルス 18 株と香港型ウイルス 4 株について実施したところ、抗原性に大きな隔たりはないことがわかりました。



標準株	標準株との差(管)								
	<-3	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+3<
新型 A/California/7/2009(H1N1)pdm	0	1	10	4	1	2	0	0	0
香港型 A/Victoria/210/2009(H3N2)	0	2	1	1	0	0	0	0	0

ワクチンは、効き目が表れるまでに 2~3 週間程度を要します。接種しても不摂生は慎み、規則正しい生活を心がけましょう。

8. 全数検査にご協力くださった医療機関の先生がたへ

奈良県では厚生労働省に先がけて今季の流行が新型ウイルスになるとお知らせすることができました。また、概ねオセルタミビルが有効であることもお知らせしてきました。医療機関の先生方のご協力に感謝申し上げます。

全数検査は終了しインフルエンザの流行も収まりつつありますが、サーベイランス検査結果の情報は、全県のデータとして今後もできるだけリアルタイムに発信していきたいと考えています。

(保健環境研究センターウイルスチーム 記)

奈良県ノロウイルス検出状況

平成 22 年度感染症発生動向調査事業
平成 22 年度食品の検査による安全確認事業

☆ 集団感染症（検出事例数）

G I 4 月：小学校（1）

11 月：小学校（1），幼稚園（1）

2 月：小学校（2）

G II 5 月：小学校（1）

6 月：特別養護老人施設（1）

11 月：保育園（5），幼稚園（2），他（1）

12 月：小学校（1），幼稚園（1），

保育園（1），他（5）

1 月：特別養護老人施設（1）

2 月：小学校（3），老人保健施設（3）

3 月：小学校（2）

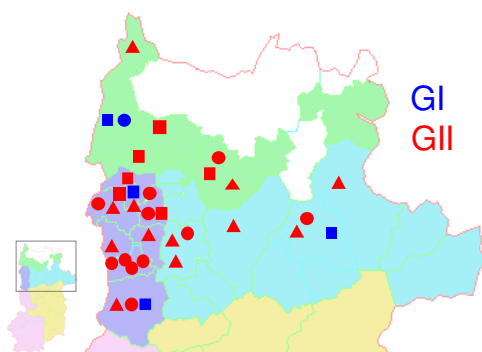


図. ノロウイルス集団発生状況

（食中毒事例を含む）

○：保育所・幼稚園、□：小学校、△：老人保健施設、他

（平成 23 年 3 月 11 日現在）

☆ 有症苦情を含む食中毒事例（検出事例数）

G II 5 月：京都府関連（2）

7 月：大阪市関連（2）

11 月：他（1）

12 月：老人福祉施設（1），他（1）

1 月：大阪市関連（1），他（1）

3 月：大阪市関連（1）

事例数

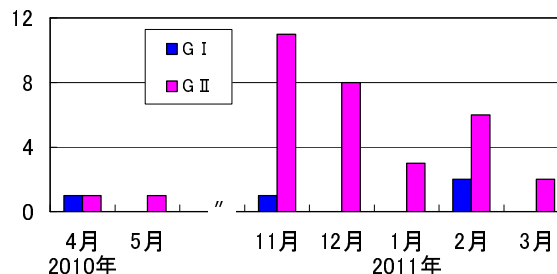


図. ノロウイルス検出事例数（月別）

（平成 23 年 3 月 11 日現在）

3 月に入り、県内小学校で発生した集団感染症 2 事例から G II を検出しました。他府県発生事例関連調査の検体も搬入されており、まだまだノロウイルスの流行状況には注意が必要です。手洗い等はこまめに行い、感染防御に努めましょう。

（保健環境研究センターウイルスチーム 記）